市民と議会

つ　な　が　る

今回は、子どもたちの居場所づくりに取組んでくださっている「みんなのリバティ」さん、「こどもリビング」さんの皆様にお話を伺いました。

みんなのリバティ × 子ども教育常任委員会

みんなのリバティでは、こどもたちに家庭でも学校でもない第三の居場所を提供しています。大人が食事や学習の支援、遊びの相手などをしてくれる安心で安全な居場所は、商店街の一角という立地もあり、地域とつながった活動も特徴です。

一階のカフェでは、こどもたちに手作りの食事を提供しており、この食を通じて、こどもたちは生活習慣や最低限のマナーも身につけています。弁当を提供する配食サービスも好評。一般のお客さんの利用も可能になっています。二階は大きなフロアになっており、勉強したり、遊んだりと自由な空間になっています。昨年からは、ヤングケアラーの支援にも取組み、学習支援や家事支援、イベントの開催など活動の範囲を広げられています。

「居場所」と「食事」の提供 財政面が課題

こどもたちが「学校に行かない」という選択をした際に、日中家を空ける保護者が直面するのがこどもの「居場所」と「食事」です。ニーズが高い取組みですが、「民間の新しい取組みへの補助がまだまだ十分ではなく、財政面は課題だ」ということでした。

こどもリビング × 子ども教育常任委員会

こどもリビングは「こどもたちのこどもたちによるこどもたちのための居場所づくり」をめざし、活動されています。学童保育とカフェに加え、昨年からは、朝から利用できるフリースクールも始まっています。こどもたちはアイデアを出しあい、高齢者施設を訪問したり、駄菓子屋さんを開催したり等々。職員の方達は「こどもたちのアイデアをサポートすることで自己肯定感を高めてあげたい」との想いを話してくださいました。

カフェでは栄養と愛情たっぷりの日替わりフードメニューもあり、こどもを連れたお母さんがふらっと息抜きに立ち寄ることも。学童クラブ・フリースクールの昼食やおやつも提供されています。お母さんとご飯を食べに来ているうちに、学校に通わなかったお子さんがフリースクールに通うようになったというお話もお聞きしました。

こども自ら選べる環境づくりを

「保護者やこどもの『欲しいけど無いもの』を実現し、こども自ら選べる環境づくりを行っていきたい。こうした民間の活動にも資金的な支えがあればありがたい」というご意見もいただきました。

※目の不自由な方へ、たま市議会だよりを音訳したCD「声のたま市議会だより（デイジー版）」を発行しています　（一部のパソコンでも再生可）。
申し込みは多摩市議会事務局　☎042－338－6890へ